



来場者に感銘をあたえたチャリティーコンサート

京都の新緑の季節を代表する「葵祭り」翌日のさる五月十六日、京都御所に近い寺町通のささやかなホールで開かれたのが、ドイツ語で「ディ・フロイデ」(よろこび)というタイトルがついたコンサートでした。出演者は、ピアノの狩野みわ子さんと歌の三上やすきさんの二人でした。三上さんは、L・バーンシュタ

イン「わたし音楽大嫌い」などを歌いましたが、なかでも中田喜直の曲、金子みすゞの詩による童謡歌曲集「ほしとたんぽぽ」は、やさしさがいっぱいのもので、「はじめて聴いたが、心にしみました」とうっとりする人もいました。

「よろこび」という言葉がぴったり。さわやかで楽しい「歌とピアノの夕べ」となりました。チャリティー・コンサートは、入場料の全額を京都新聞社会福祉事業団に寄付し、会場のある旭堂楽器店の企画で二カ月ごとに開催するよう

出演した狩野さんも「入場料収入の一部を寄付するイベントは多いですが、会場費などを主催者が負担して、出演者もノーギャラで、入場料収入の全額を寄付するというのは、めずらしいですし、気持ちがいいですネ」と話していました。

# イベント 楽しむ

## チャリティークラシックコンサート

### 《ディ・フロイデ》

京都市中京区寺町通夷川上ル  
旭堂楽器店 2階  
サンホール

### 音楽と善意の交流

狩野さんは、シューマン「アラベスク」、ショパン「バラード」などの美しい曲を披露し、子供から大人までが楽しめて、

になって、これが十三回目。発案者である多田裕昭社長(34歳)は「社会福祉に貢献していただき、クラシック音楽を気楽に楽しんでもらえて、大変うれしい」と回を重ねていくことを喜び、今後のコンサートの発展に期待を込めていました。

旭堂楽器店は、国産やヨーロッパのピアノを扱うユニークな楽器店で、八十年近い歴史があり、その延長線の上にこのコンサートがあります。十四回目は七月十八日で、東由美子さんのピアノソロリサイタル、十五回目は九月十九日に、斉戸典子さんと小川隆昭さんの「連弾のたのしみ」が予定されています。

今年一月十七日の十一回目のピアノソロリサイタルでは、出演者の足立恭子さんから「阪神大震災からちょうど八年目の当日なので、寄金を募りたい」との提案があり、会場に募金箱が回されました。多田社長は「入場料とは別に、二万数千円が集まり、神戸新聞厚生事業団の被災高校生支援基金に送金しました。うれしいことでした」と、善意の輪が徐々に広がっていることを喜んでいました。